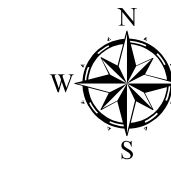


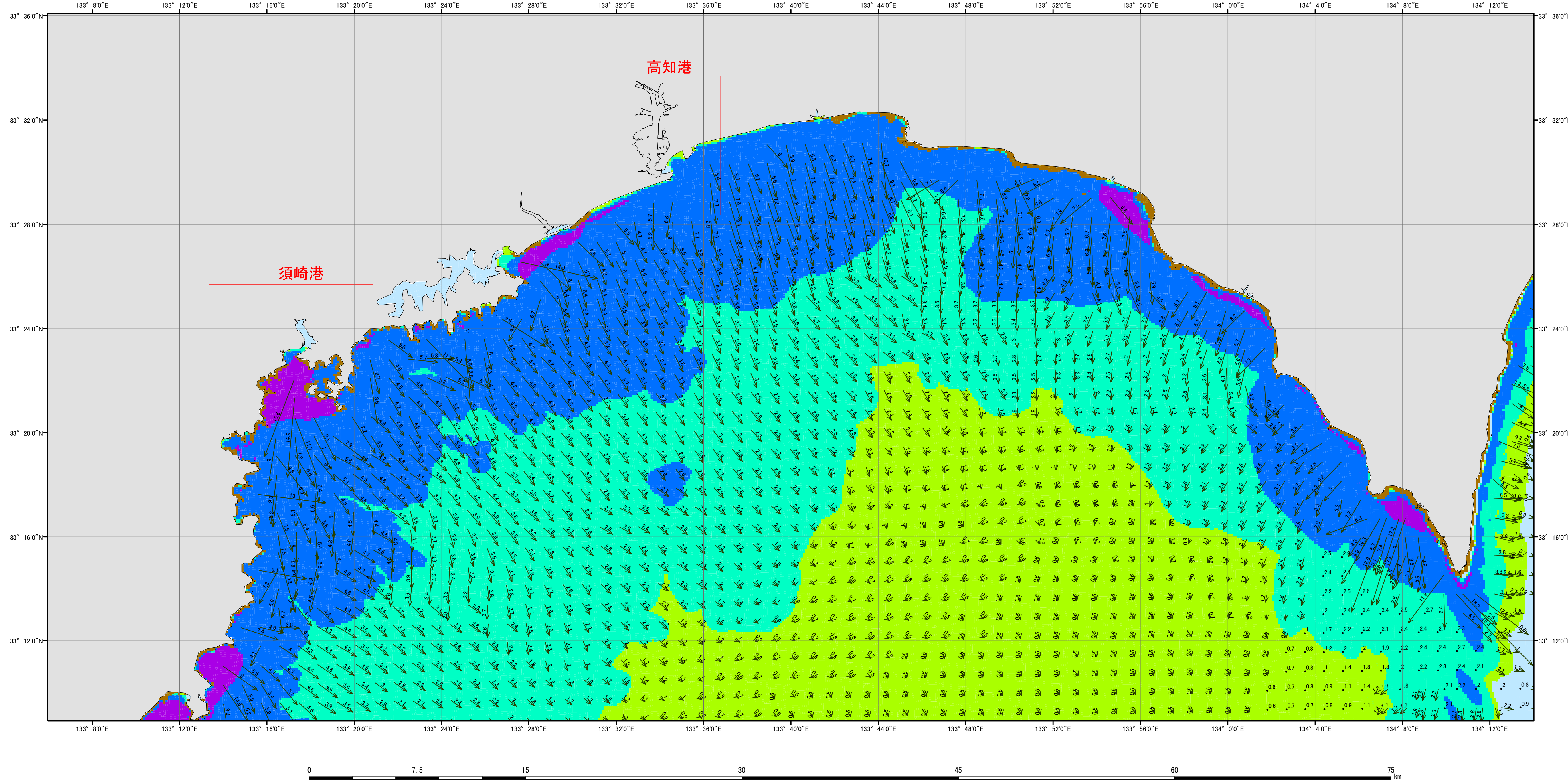
# 四国南岸（中央部） 広域津波防災情報図（引潮図）



座標系:メルカトル図法  
測地系:世界測地系 (WGS84)

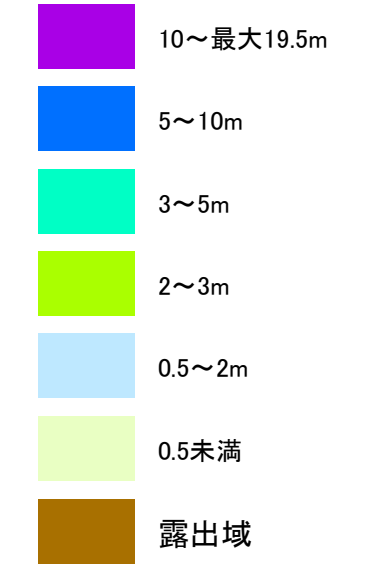
計算条件: 最低水面 (零位)  
Zo: 1.10m  
隆起量: 平均 -0.20m (-1.69m ~ +3.26m)  
備考: 本図のシミュレーション結果は、震源の位置、規模、細かな地形などの影響により、実際のものとは異なることがある。

赤枠内には、さらに詳細な港湾の津波防災情報図があります。

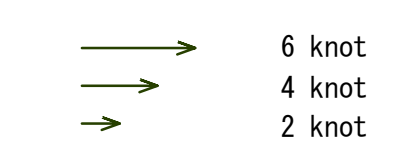


## 凡例

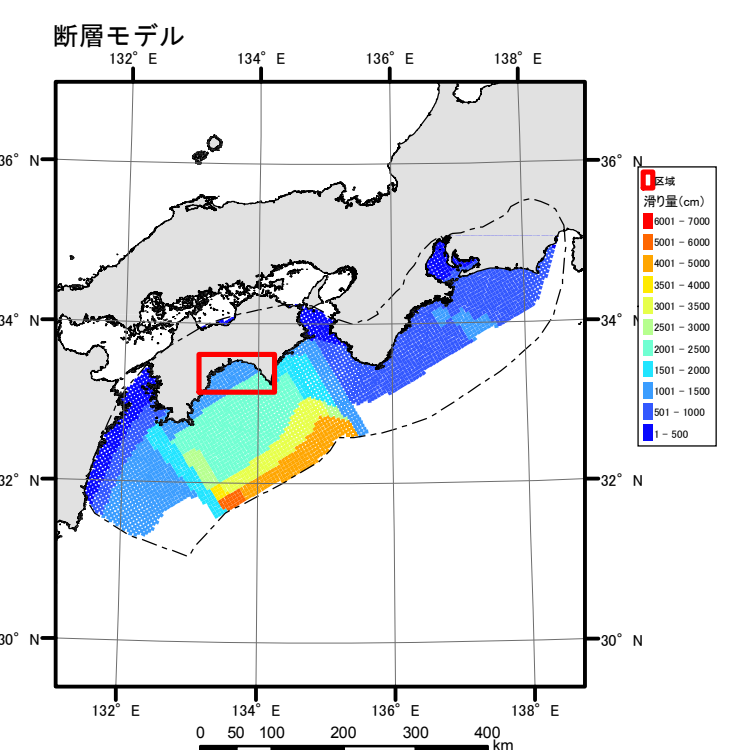
最大水位低下



引潮時最大流 [knot]



- 流向変化が激しく、進入・引潮等の判別が困難な海域では、流速のみを表示した。
- 流向、流速については、陸岸から概ね500m以上離れた地点から表示した。



ケース④「四国沖に『大すべり域+超大すべり域』」

断層面積 S (km <sup>2</sup> )	140,000
地震モーメント Mo (N·m)	6.4 X 10 <sup>22</sup>
平均すべり量 D (m)	10.8
モーメントマグニチュード Mw	9.1

- 本図の作成にあたっては、“津波解析支援GISシステム (ArcGIS 10.2 対応)” を使用した。
- 本図の作成にあたっては、以下の資料を使用した。
  - ・海上保安庁が保有する水深データ

作成機関: 海上保安庁  
防災情報図作成年月: 平成29年 6月 (初版)  
地形データ作成年月: 平成19年10月 (初版)  
平成24年 3月 (改訂)

本断層モデルは、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会 (第二次報告) (平成24年8月29日発表)」により公表されたものである。  
使用した断層モデルは、内閣府より公表された11ケースの中から、高知港周辺において、浸水面積が最大となるモデルを選定した。